



平成 30 年 11 月 2 日  
佐賀大学理工学部

## 工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀において「大学見学会」を実施

### 【概要】

佐賀県工業連合会と理工学部が共同で運用する「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」の新しい試みとして、大学見学会（学内研究者のポスターによる研究説明）が平成 30 年 10 月 24 日（水）13:30～15:30 に理工学部 6 号館 1 階の都市工学科大講義室と 2 階の多目的ホールにおいて実施されました。理工学部 15 名の教員により、ポスター発表が 1 時間 40 分にわたって行われ、県内企業関係者と学内関係者 70 余名の参加があり、盛会となりました。

### 【本文】

理工学部は、佐賀県工業連合会と共同で「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を立ち上げ、大学と産業界を結び付ける事業として参加企業の社長による高度人材育成キャリア講演会や理工学部の施設見学会、PBL 演習等を実施してきました。

本年は新しい試みとして、大学見学会（学内研究者のポスターによる研究説明）を平成 30 年 10 月 24 日（水）13:30～15:30 に理工学部 6 号館 1 階の都市工学科大講義室と 2 階の多目的ホールにおいて実施しました。冒頭、渡孝則学部長から開会の挨拶と佐賀大学名誉教授でミラサポ専門家の佐藤三郎先生より共同研究の幹旋窓口の紹介と説明がなされました。その後、理工学部 15 名の教員有志により、ポスター発表が 1 時間 40 分にわたって行われました。

企業からは、現場の技術者の方のみならず代表取締役の方にも数多く御参加いただき、積極的に内容に関する説明を求め質問している姿が終始続きました。ポスター発表では、プラズマを利用したトマトの殺菌消毒技術や、要介護者との会話や看護ステーションとの通信連絡機能を搭載したぬいぐるみによるデモ展示などもあり、参加者を大いに沸かせていました。また、教員の代わりに担当学生が説明しているブースもあり、学生にとっては学会や卒論とはまた違った緊張を感じながら発表する機会となり、教育的な効果もあったと思われます。最後に、渡孝則学部長と豊田一彦副学部長から閉会の挨拶が述べられ、閉会しました。

終了後、多くの企業のトップとの質疑に満足した、今後も継続して少しでもシーズ・ニーズのマッチングを行って欲しいなど、貴重な意見が大学関係者から寄せられました。企業参加者 28 名、大学関係者 45 名、計 73 名の参加があり、同週の後日行われた「2018 さがを創る大交流会」につながる盛会となりました。

## ポスター発表内容一覧

- 1 AIドローンによる防災・救命システム (知能情報システム学科 中山功一准教授)
- 2 介護スタッフ支援ロボット：CATARO (知能情報システム学科 中山功一准教授)
- 3 人工知能によるミニ四駆と電動義手の学習 (知能情報システム学科 山口暢彦准教授)
- 4 見て、考えて、動作するサイボーグ義手 (知能情報システム学科 福田修教授)
- 5 セラミックス粒子・薄膜の形態制御と機能化 (機能物質化学科 矢田光徳准教授)
- 6 電気化学：化学と電気のエネギー変換 (機能物質化学科 富永昌人教授)
- 7 2次元炭素材料(グラフェン)への溶媒分散性付与と評価手法の開発 (機能物質化学科 坂口幸一准教授)
- 8 高分子修飾シリカ粒子の自己集合過程を利用したコロイド粒子膜の構造制御コロイド粒子膜の構造制御 (機能物質化学科 森貞真太郎准教授)
- 9 二酸化炭素の分離回収と利活用を志向した基礎科学研究 (機能物質化学科 梅木辰也准教授)
- 10 有価金属回収と有害物除去のための分離剤開発 (機能物質化学科 大渡啓介教授)
- 11 光空間通信技術 (機械システム工学科 辻村 健教授)
- 12 設計・開発時における最先端「磁界シミュレーション」活用のご提案 -インバータ用リアクトルの低損失・低騒音化を例として- (電気電子工学科 村松和弘教授, 高 炎輝助教)
- 13 あたらしい高周波ワイヤレス通信技術の創造 (電気電子工学科 西山英輔准教授)
- 14 プラズマを利用した殺菌消毒技術で菌やカビを殺菌し、農作物や食品の品質劣化を防ぎます (電気電子工学科 三沢達也助教)
- 15 物質循環に資する新しい水環境保全技術の研究 (都市工学工学科 三島悠一郎講師)



渡学部長の開会の挨拶



ポスター発表の様子

担当：理工学部 豊田一彦 (8638), 大渡啓介 (8669)